

おぼろげにうの会ニュース

三年目を迎えた らいてうの家

館長 米田佐代子

今年も4月26日から11月3日まで「家」をオープンします。「石の上にも三年」といいますが、今年さらには大きな発展の年にしたいものです。

地域でも認められた「家」

今年もすでに全国から訪問の問い合わせがあまりです。また昨年度まで三年間にわたって長野県から支援金を受けたほか、上田市「平成19年度上田市都市景観賞」を受賞（合併後真田町では初）しました。「長野県出身でもない」らいてう記念施設を自治体がこのように認めてくださったのは異例のことです。「家」がたんなる記念館ではなく、ここに集まる人びとが話し合い、やすらい、考え、行動する場になろうという思いが来館者をひきつけ、地域にも受け入れられる一歩になったのではないのでしょうか。

新しいモニュメントや企画も続々

今年も新企画の展示をはじめ、5月の植樹祭、6月「らいてうと憲法九条」講座、7月には念願

の宝井琴桜さんの講演の会も実現します。8月には上田駅前情報プラザで「岸田衿子絵本展とトークショー」も計画中。資料整理もしていますが、その研究成果を「紀要」として刊行する計画も進行中です。

懸案だった「家建設募金寄付者一覧」の銘板も完成しペランダの壁に掲出。「景観賞の家」のブロンズ銘板も自然石にはめ込んで門柱脇に据えることに。日ごとに新しい装いになる「家」に、初めの方ばかりよりもリピーターの方もぜひどうぞ。

来館者三千人以上をめざし、新しいプランも

ボランティアのみの運営には限界があり、「オカネ」のことはほんとうに頭が痛い問題です。財政の基本はなんといつても会員と来館者をふやすことです。どうか会員・維持会員をご紹介ください。また昨年二千人以上の来館者がありました。今年も三千人以上をめざしたい。通常の土・日・月開館（夏休みは金曜日）のほか、団体で研修等のご要望があれば平日の利用や米田館長の講演などもふくめてご相談に応じたいと思います。

また、たとえば「奥村博史『魯迅臨終の図』を見に上海へ行こう」「大津の築添正生さん（お孫さんで金属工芸家）を訪ねて作品の鑑賞と祖父博史の話の聞きに行こう」といったツアープランもい

発行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

かがででしょうか。らいてうの「平和・九条」への思いをひろめる活動もぜひすすめたいものです。今年も「家」に来ると楽しい、ところが安らぐ、勉強になる、人とつながる…そんな思いを満たす「家」にしましょう。

米田会長が魯迅記念館を訪問



新展示でとりあげる奥村博史の油彩画（上海魯迅記念館所蔵）は、らいてうも実物を見る機会がなかった「幻の作品」です。そこで米田

会長が急遽上海へ。魯迅記念館では王錫榮副館長をはじめみなさんに歓迎され、収蔵庫からわざわざ絵運び出してくださいました。こちらからはらいてう自伝や色紙、奥村の絵の図録（日本女子大成瀬記念館作成）などを贈呈、記念館からは魯迅の書を刻んだ記念品とともに「奥村博史先生のこともっと知り、中日友好のあかしとして記念したい」と感動的なごあいさつを頂きました。

（写真）王錫榮副館長と米田会長

らいてう講座ひろく

今を生きるあなたに……
「らいてうの思想と現代」



2月14日、3月14日の2回にわたり「今を生きるあなたに……らいてうの思想と現代」をテーマに、東京・全国教育文化会館でらいてう講座を開催しました。

この講座は戦前、家制度に閉じ込められていた時代から、戦後、主権者となった私たち女性を再び昔に戻そうとする動きが強まっている今、らいてうの思想に学び「より人間らしく生きる」ために考えあてていきたいと願って開かれました。

1回目はらいてうがめざした「人間らしさ」と、「今ジェンダーバックラッシュがねらうもの」と題して、現代の女性をめぐる問題、課題に迫りました。講師は女性史研究者・らいてうの会副会長の折井美耶子さんと、新日本婦人の会副会長の橋和枝さんです。

折井さんは1911年発行された雑誌「青鞥」に掲載されたかの有名な創刊の辞「元始女性は太陽であった」にはじまり、「現行の結婚・無法な不条理な制度」「母の仕事に経済的価値を認めよ」とらいてうが、その時代の女性たちを取り巻くさまざまな問題に向き合い、考察し、人間の生き方について強く主張し、戦後は「解放された日本婦人の力を、愛を、知恵を世界平和の探求に結集したい」「憲法を守りぬく覚悟」など、自らの理論と思想をきずきあげた姿を、年代ごとの論文や意見表明を整理して明らかにしました。

高橋さんは2007年秋からいわゆる「靖国」派といわれるグループの顕著な動きとして、DV法まで標的に、男女平等・男女共同参画のとりくみに、暴力的な威嚇や挑発で妨害するようなジェンダーバックラッシュを詳しく報告しました。その狙いは「戦争する国を支える」女性、国民作りであることをしっかりと見抜こうと訴えました。

2回目のらいてう講座は「ただ戦争だけが敵なのですーらいてうが『九条』に寄せた世界平和への希望」がテーマです。

講師に、らいてうの会会長・家館長の米田佐代子さん、ゲストとして山梨県立大学教授の藤谷秀さんを迎えました。

米田さんはらいてうの平和思想について、「自分は何者であるか、人間とは何か」について考え禅に傾倒し「人間は自然とともにある存在」との確信に到達した時期にはじまり、第一次大戦の時期に母親となって、いのちのいとおいさを実感し

て母性主義にめざめ、「女が生んだいのちを抹殺する戦争をなくすためには、女性が権利を得て社会を変えなくてはならない」、その思いは女性の自立と子どもの権利の確立への願い、さらに世界平和へと広がり、戦後「私たちの敵は戦争です。ただ戦争だけが敵なのです」と平和活動に続くらいてうの思想は、戦前からの学問と行動によって確固と築かれた道をたどりながら話されました。

藤谷さんは戦争という暴力にたいして、平和は理性である。理性とは「言葉を使って話し合う」ことであり、人間は理性的な存在であること、戦争と平和を考えると、これからはますますその意味は大きく、9条とともに男女平等が大切になっていると、女性たちの活動にエールをくださいました。

2008年らいてう忌&総会

新年度のスタートにふさわしく、総会の日かららいてう忌を企画しました。お二人のお話を伺って、らいてうの「憲法を守りぬく覚悟」の思いを確認し、志を受け継いでいきたいと思えます。

日時 4月19日(土) 13時~14時30分
場所 東京ウイメンズプラザ 2階第1会議室
お話 ・高野悦子さん(岩波ホール総支配人)

―記録映画「平塚らいてうの生涯」製作に関わって らいてうへの思い

・柳川慶子さん(演劇集団 円)

―朗読劇「この子たちの夏 1945 ヒロシマ・ナガサキ」継続に向けて

尚、らいてう忌終了後、総会をひらきます。

森の講座と スノーシューで雪の森を歩く



2007年

度第4回目的
「森の講座」と
「スノーシュー
ーで雪の森を
歩こう」に参
加しました。

2月11日は、
真田町の高齡
者総合福祉施
設アザレアン
さなだで「森
の楽しみ、森
の学び」森の

命と私たちの命」と題する講演でした。講師は森林ボランティア団体「森倶楽部21」の代表、永田千恵子さんで、なかなか興味深いお話でした。この「森倶楽部21」は1997年の地球温暖化問題に関する国際会議が京都で開催されたのをきっかけに、仲間が集まってできたのだそうです。「健全な森林を育てる活動を通じて、森林の持ついろいろな多面的な機能を学び、持続可能な社会を考えていくことを目的としている」とのことです。
手入れ不足で山が荒れると土砂災害などがおき、里山の生き物や文化が失われる、「山が元氣、みんな元氣」なのだそうです。人間が関ってできな里山は、人間が関らなくなると駄目になるとのこと。

こと。草刈りをし、枝打ちをして手を入れた山は生きかえる。「蝶の森」と名づけたところでは、16種類しかいなかった蝶がこの4年間で71種類に増えたそうです。山が荒れていると蝶は自分の食草を見つけないと生きていけません。草刈りをすると蝶の道ができ、絶滅が危惧されていたキキョウやオミナエシなどの山野草も増えるそうです。自然はいろいろなることを伝えてくれると語ってくれました。

▽▽▽

翌12日は「スノーシューで雪の森を歩こう」でした。スノーシューは西洋式のかんじきです。あずまや高原ホテルの前から菅平牧場まで、往復2時間の行程。粉雪の降る中、ガイドの西牧さんが野ウサギやシカの足跡を見せられました。残念ながら本物には出会えませんでした。白樺とダケカンバの違いを教えてくださいました。幹が白いのが白樺、ベージュがかかっているのがダケカンバ、葉はよく似ているようですが、細かいことをいうと葉脈の数が違うのだそうです。そしてダケカンバのほうが標高の高い所にもあるとのことでした。

ようやく菅平牧場に辿りつきました。見渡す限り誰も歩いていない真っ白な雪原、遙かかなたに何本かの木が、ちらつく粉雪のなかかすんで見えました。素晴らしい景色でした。「ここの雪なら食べられますよ」とガイドさんが配ってくれた紙コップに雪を詰めて、エバミルクをかけた天然の「雪ミルク」の美味しいこと。そのあと温かな紅茶で乾杯。帰り道は下り坂で早い。ほぼ予定通り帰りました。

(折井美耶子)

羽田名誉館長真田へ

4月12日1時半より上田市真田公民館で羽田澄子監督『終わりよければすべてよし』の上映会をします。13日1時半より地元の福祉施設・アザレアンさなだで羽田さんを囲んで交流会をします。

らいてうの森、

長野県薬草園で植樹祭り

5月25日(日) 10時~3時

この2年間、植樹をし、手入れをしてきたらいてうの森には、山菜も芽を出し、小鳥がさえずり、やさしい空間が広がっています。ここに新しく木を植え、自然の恵みを味わいましょう。山菜天ぷらなどの季節の味、野点のお茶、地域の物品販売など新緑の中で気持ちのいい1日を過ごしませんか。5月24日はらいてう忌、自然と自然食を愛したらいてうさんを思いながら。申し込みは、4月中に「らいてうの会」まで。詳細をお知らせします。

待望の宝井琴桜さん「家」で一席!

かねて「らいてうの家」で演じたい」といつておられた女流講師の宝井琴桜さんが、忙しい日程を縫って来てくださいます。乞うご期待。ツアーの方はこれに合わせていかがですか。

日時 7月20日(日)午後2時より

会場 らいてうの家

演題 「講談平塚らいてう―博史とらいてう」

木戸銭 1000円

シリーズ

らいてう再発見



向って前列右から3人目黒板さきさん、1人おいてらいてうさん、出野柳さん

『女子大家政科クラス会』の写真から

らいてう関係資料のなかから、「昭和16年5月17日於黒板姉御宅記念撮影」「女子大家政科3回生クラス会にて」と書かれた写真がみつかりました。以前作家の永井路子さんに記念講演をしていただいたとき、歴史学者のご夫君黒板伸夫さんのお母様黒板さきさんが、女子大でらいてうと同級だった事、よくご自宅でクラス会を開かれ、塩原事件のあと「私もねえ、大芝居やっちゃたのよ」とあつけらかんと話していたというエピソードなどを伺いました。さっそく永井さんに問い合わせしたところ、同じ写真が黒板家にもあったそうで、丁寧なお手紙をいただきました。

…らいてうさんの一人おいて右側に坐っている

のが黒板さきです。…黒板によれば、この部屋はま
ちがいなく黒板の家の二階だということです。当
時の東京市牛込区新小川町二丁目二番地です。

母と黒板の父伝作は、両方ともつれあいを亡く
しての再婚で、黒板の誕生が大正12年(一九二三)
ですから、その数年前の結婚でしょうか。やや落
ちついてから、黒板の家でクラス会をしたよう
で、女子大家政科三回卒のらいてうさんがいらっ
しゃったのがこのときがはじめてかどうかはわか
りません。黒板も御挨拶はしたそうですが、この
写真のときだったかどうかは忘れてしまったと申
します。

私たちの結婚は一九四九年、そのころは月に一
回私宅(中野区野方)で写真の中においでの出野
柳さん(女子大寮監)、吉田けいさん、松下さん
がおいでになり、母の部屋でお昼を頂きながらお
しゃべりを楽しんでおいででした。…らいてう
さんはおいでになりませんでしたから、私は直接
お目にかかったことはありません。以上、取りあ
えず御返事まで。……

なお、永井さんは「らいてうの家の完成おめで
とうございます。本当に大変な御努力でしたね。
いわゆる記念館でないものという御発想はみごと
です」とも書き添えて励ましてくださいました。

(文責 米田佐代子)

新展示「らいてうと博史―愛と平和の50年」

今年「家」の新展示パネルは「らいてうと博史
―愛と平和の五〇年」です。「らいてうの夫」と

しか紹介されないことが多い博史を再評価しよう
と、デッサンや指輪をはじめ中西悟堂らとの交友
など、異色の活動とらいてうへの惜しみない愛、
そして静謐という形容がぴったりの晩年を追った
もので、一九三六年上海で描いた油彩「魯迅臨終
の図」カラー写真や、坂本真琴に贈った指輪など
めずらしい出品も。ぜひみにきてください。

〔事務局日誌〕

- 1月18日 記録映画を上映する会理事会に出席
- 2月11日 第4回森のめぐみ講座
- 2月12日 スノーシュートレッキング
- 2月14日 第1回らいてう講座 於全国教育文化
会館
- 2月18日 事務局会議
- 2月22日 第4回理事会
- 3月4日 第9回通常総会案内発送
- 3月8日 日本女子大学文学部・文学研究科「新
しい女」研究会主催『「青鞥」と世界
の「新しい女」たち』米田会長が講演
の「新しい女」たち」米田会長が講演
3月10～12日 遺品整理・新規展示パネル打ち合
わせ於真田
- 3月12日 「家」スタッフ養成講座 於真田林業
会館
- 3月14日 第2回らいてう講座
- 3月18日 記録映画を上映する会理事会に出席
- 3月20日 新規展示パネル打ち合わせ・於真田
- 3月27日 新規パネル「らいてうと博史」業者に
発注